

第3回野上紘子記念賞

学会賞 該当なし

推進賞 以下の2件

恵光院 白 氏

『美術家索引 西洋篇・東洋編』（恵光院白編,日外アソシエーツ,1991-1992）をはじめとする書誌作成、アート・ライブラリアンの草分けの一人として長年にわたる活動の功績に対して。

井上如氏は、本書「序に替えて」で「この索引の編者は、十数年掛けて落ち穂拾いのように[美術家を]集めた」と書いた。インターネット以前、多くの作業が、本学会発足の1989年の以前になされ、1991-92年に刊行の本書は、二分冊、実に2271頁、3万9千人の美術家情報へのアクセスを可能ならしめる索引であり、今日なお有用な美術参考図書の筆頭に位置している。確かに採録情報源となっている事辞典、年鑑、カタログはアウトオブデートであるが、近年、氏が追い掛ける堀直格の『扶桑名画伝』が今日なおその価値を減じないのと同じく、本書は利用において長命たり得るとともに、記述・排列など書誌的索引の諸要素の好例を示す範としても、日本のアート・ドキュメンテーションの成果であることを以て、推進賞に値するものと評価する。

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

80年間たゆまず演劇関係資料を収集し、時代に沿いながら、あるいは先取りしながら、継続して資料の情報化・サービスを行われてきた功績に対して。

昭和3年創立の演劇博物館は昨年、2008年に80周年を迎え、記念『名品図録』を刊行した。日本演劇の古今のみならず坪内逍遙博士蒐集のシェイクスピア資料から京劇衣装まで洋の東西、その範囲は広い。図録を見る限りは文字通り博物館であるが、実のところ同館はまた図書館であり、文書館であることは、その演劇情報総合データベースーデジタル・アーカイブ・コレクション(<http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/index.html>),その公開の進捗は近年目を見張るものがある、から明らかである。まさにこの館（やかた）は、演劇研究のためのセンターであり、かつMLA連携の実験場であって、その具現の好例を示すものであると言えよう。近年、ともすればスクラップアンドビルドを以て良しとする傾向に流れているかに見える大学の附置研究施設の類とは断然一線を画す、80年の歴史の継続がなにより貴重であり、以て推進賞に値するものと評価する。